聞く抱負

年女

宝米　土屋ちよ

年老いて何の抱負も有りませんが、町や家族の温かい思いやりにて何の不満もなく毎日を楽しく過しております。

これからも、いつまでも健康で自分の事は自分での気持でいます。また、月二回の念仏には菩提寺（明光院）に多数の仲間と集り世間話に花を咲かせて語り合うのを楽しみにしています。

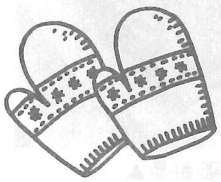
やがて孫たちが成人して社会に出て恥ずかしくない人に成ってくれるのを楽しみにしております。

また、野菜の出荷時には細々ながら毎日の健康の一助として仕事を手伝っております。

長塚　伊橋虎雄

今年も続ける

一、元教育者であったことを忘れない
二、お金で良心は絶対に売らない
三、やせ我慢もしないが空威張りもしない
四、自転車で町じゅうの隠れているよい事を探して歩く
五、町史を完成する



芝崎　岩沢恒子

この世に生を受けて六十年、わたしたち年代は、大きな山川を越えて来たような気がします。

終戦後の、世の移り変りに戸惑いながらも今日まで、なんとか過して来ました。

平和な世の中に変り、また、新しい年が明けました。

きびしい農政の中ですが、農家としては、今年一年の豊作を祈りたいと思います。

また、自分のうちこめる趣味を持って色々の会合に出席して多くの方々のお話を参考にして老後のあり方などを考えて行きたいと思います。

辻　実川彰

人との和

功徳を積めば功徳を持って返されると言う様に常々思う事は和である。人の不幸も自分がそんな気持だと信じ、自分だけ甘い汁をすすればと不幸を尻目に「いい気味」などと恐ろしい事を言う人もいるが決して本心ではないはず。

あしたへの前進を呼びかけ合う協力を望みたい。

今は何事にも機械化されて、昔の面影もうすれ行く世の中、町へも一つの資料館がほしいと望む。

新井　大川宏

一九八二年、明けましておめでとうございます。

今年は戌年、私は四回目を迎えました。

一回、二回は夢の中で、三回目は、夢を見て過し、四回目で目を覚まされた感じ、目覚めて見ると、自分の着ていた布団がいかに薄っぺらで、冷え冷えしていたことか、だが、これが現実の社会なら、たとえ自分が凍えようとも、冷たい風に身をさらさなければならないと思う、布団が薄ければそれ以上に自分の体に熱を貯え、布団がなくても十分眠れる強い身体と窓をあけ放せば心地よい春風が入って来るような社会を作らなければと思う。

谷中　越川まさ

一、明るい家庭をつくる事
二、人の悪口をいわない事
三、他人に迷惑をかけない事
四、近所づきあいをよくする事
五、生活改善を実行する事
六、ストーブや電気のけし忘れに気をつけ省エネにつとめる事